

第7期麻生区地域福祉計画（案）

令和6（2024）年度～令和8（2026）年度

本計画（案）は、令和5年11月初旬時点の内容のものであり、令和6年3月の策定（改定）に向けて、川崎市社会福祉審議会地域福祉分科会やパブリックコメント、庁内協議等の意見を踏まえ、一部内容や表現が変更となる場合があります。

川崎市麻生区

目次

序章 麻生区地域福祉計画の位置付け	1
1 麻生区地域福祉計画とは	2
2 区計画の推進体制	5
第1章 麻生区地域福祉計画策定にあたって	7
1 麻生区の概況	8
2 統計データから見る麻生区の現況	9
3 地域ケア圏域について	19
4 麻生区の町名別人口推移	32
5 麻生区地域福祉マップ	33
6 麻生区の町名別地区組織	34
7 地域福祉実態調査の主な結果	35
8 第6期計画の振り返り	41
第2章 第7期麻生区地域福祉計画の取組	45
1 計画の体系	46
2 麻生区がめざす地域の姿	47
3 事業体系一覧	54
4 具体的な取組	56
資料編	83
1 第7期麻生区地域福祉計画策定の経過	84
2 あさお福祉計画及び地域包括ケアシステム推進会議開催運営等要綱	85
3 あさお福祉計画及び地域包括ケアシステム推進会議委員名簿	86
市地域福祉計画概要	87
1 川崎市地域包括ケアシステム推進ビジョンに基づく取組の推進	88
2 川崎市地域包括ケアシステム推進ビジョンの推進体制	91
3 第6期計画の取組状況と第7期計画に向けた課題	94
4 令和7（2025）年以降を見据えためざす姿	95
5 第7期計画期間における施策の方向性	98
6 第7期計画の実施状況の点検・見直し	102
第7期川崎市地域福祉計画の施策体系図	103

麻生区地域福祉計画 の位置付け

序章

1 麻生区地域福祉計画とは

(1) 川崎市における地域福祉計画

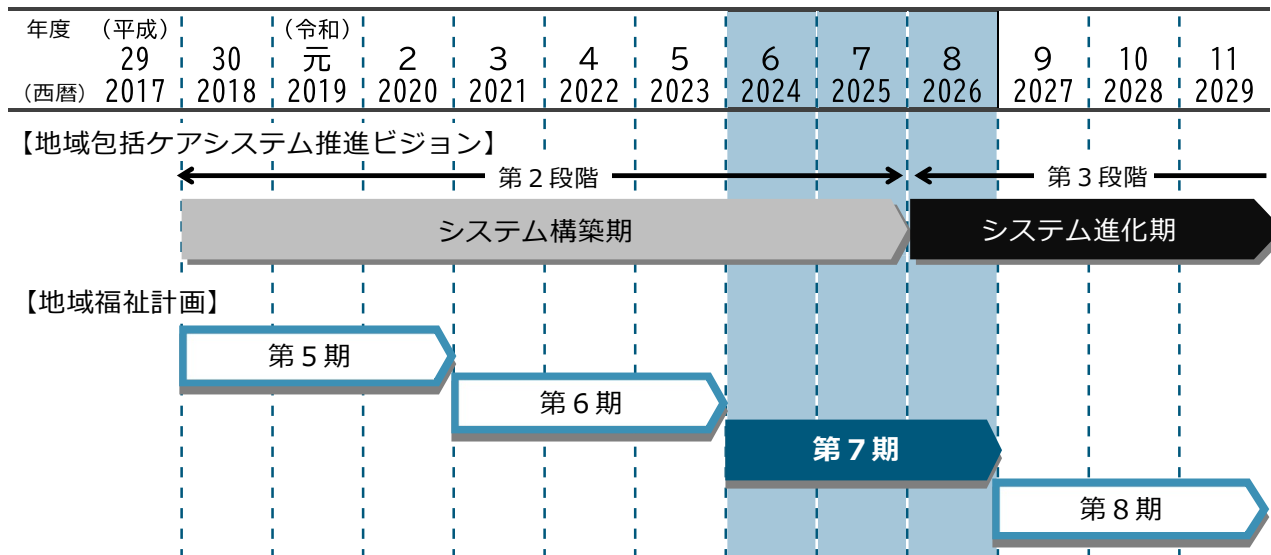
「地域福祉計画（以下、「計画」という。）」は、社会福祉法第107条に基づき、次の事項を一体的に定める計画です。

- ① 地域における高齢者の福祉、障害者の福祉、児童の福祉その他の福祉に関する共通的事項
- ② 地域における福祉サービスの適切な利用の推進に関する事項
- ③ 地域における社会福祉を目的とする事業の健全な発達に関する事項
- ④ 地域福祉に関する活動への住民の参加の促進に関する事項
- ⑤ 包括的な支援体制の整備に関する事業（同法第106条の3第1項各号）の実施に関する事項

本市では、平成16（2004）年度に第1期計画がスタートし、今回は第7期となります。第7期においても、市計画と区計画をそれぞれ策定しました。

(2) 計画の期間

第7期計画の計画期間は、令和6（2024）年度から令和8（2026）年度までの3年間です。



(3) 区計画策定の趣旨

麻生区では、出生率が低下するとともに、高齢化率が7区で最も高い状況にあるなど、少子高齢化が進んでいます。また、隣近所の関係の希薄化による孤立や分野別の対応では解決が難しい家族の問題、制度の狭間にある支援ニーズなど、生活上の課題は多様化・複合化しています。

すべての人が住み慣れた地域で、自分らしく生き生きと生活していくためには、区民一人ひとりの力だけではなく、身近な地域での助け合いや、保健福祉に関わる機関や団体と行政が連携・協働し、地域づくりに取り組むことが大切になります。

「麻生区地域福祉計画」では、市全体の課題解決に取り組む「川崎市地域福祉計画」のもと、麻生区の地域性に応じた具体的な施策を取りまとめています。身近な地域の中で支え合いの仕組みを作り、暮らしやすいまちづくりを目指すために、**自助**（自分自身のケア）、**互助**（みんなの支え合い）、**共助**（介護保険や医療保険などのサービス）、**公助**（行政による支援）がつながり、バランスよく機能するよう計画を策定し、取組を進めていきます。



(4) 区計画策定の流れ

計画策定にあたり、第6期計画の振り返りを行うとともに、区民へのアンケート調査などにより、地域の現状や課題の把握を行いました。

また、区内の関係機関を代表する委員などから構成される「あさお福祉計画及び地域包括ケアシステム推進会議」で、様々な視点から麻生区での地域福祉の推進に向けた理念や基本目標、取組のあり方などについて意見聴取を行いました。同時に、行政職員による会議体において計画全体の方向性や具体的な取組などを確認・検討し、計画案を作成しました。

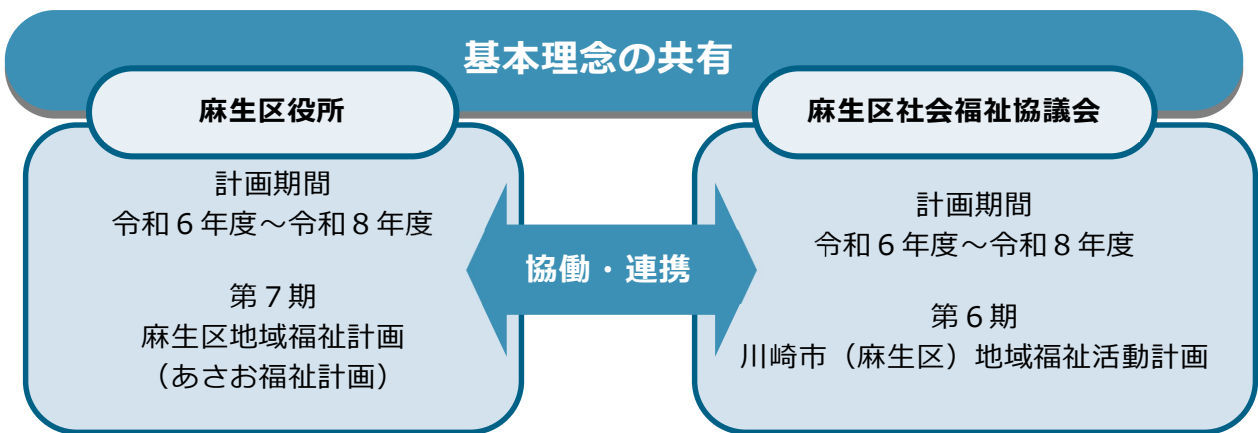
計画案については、パブリックコメント（意見公募）手続等を実施し、区民の意見を踏まえた上での検討を経て、本計画を策定しました。

（５）麻生区社会福祉協議会との連携

社会福祉協議会は、地域福祉の推進を図ることを目的とした民間の社会活動を推進するための団体です。都道府県、市区町村ごとに設置されており、麻生区社会福祉協議会は、区民の一番身近なところで住民活動を支援しています。

社会福祉協議会では、住民組織、ボランティア、福祉関係機関（行政も含む）等が集まり「地域福祉活動計画」を策定し、地域福祉を進める活動・行動のあり方を示しています。

第7期麻生区地域福祉計画の策定にあたり、麻生区社会福祉協議会とは、引き続き区計画の基本理念（目標）を共有し、相互に補完しながら、地域の課題解決や情報共有に取り組み、支え合いのまちづくりを進めていきます。



（６）区計画とコミュニティ施策との関係

川崎市では、市民一人ひとりが多様なつながりをつくり、自分らしく幸せに暮らせる地域社会である「希望のシナリオ」の実現をめざして、平成31（2019）年3月に「これからのコミュニティ施策の基本的考え方」を策定しました。

麻生区においては、「希望のシナリオ」の実現をめざす取組として、令和2（2020）年から「あさお希望のシナリオプロジェクト」を開始し、「みんながつながる みんなが輝く I LOVE ASAO」のキャッチフレーズを掲げ、プロジェクトメンバーによる検討を進めています。

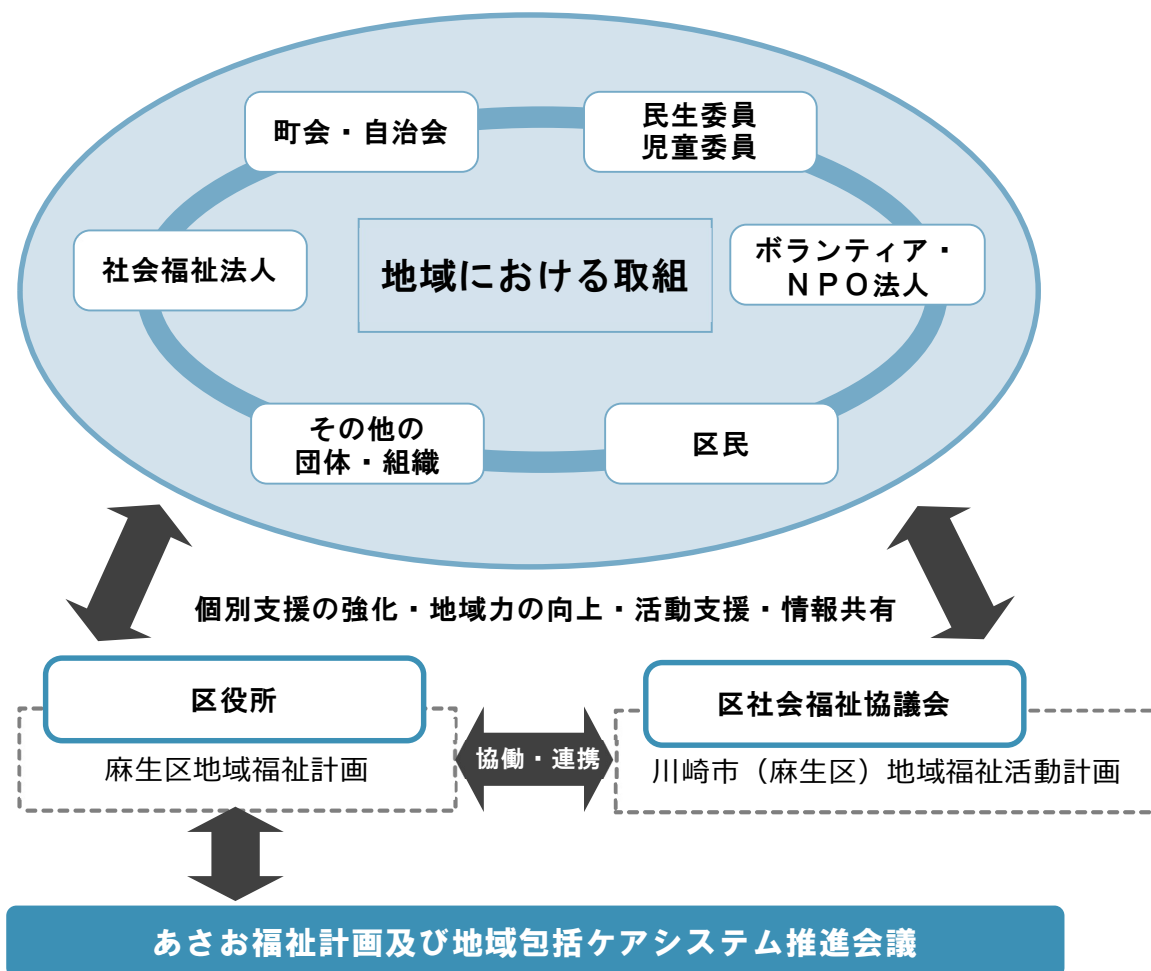
麻生区では、「希望のシナリオ」の実現に向けたコミュニティ施策における取組と、麻生区地域福祉計画における各取組を、情報共有しながら足並みを揃え推進していきます。

2 区計画の推進体制

(1) 区計画の推進体制

本計画は、福祉、保健、医療、まちづくりなど、幅広い分野に関連していることから、庁内の関連部署及び地域の関係機関との連携のもと、総合的な取組を図っていくものです。

また、計画の進捗状況については、地域福祉推進の関係機関・団体等で構成される「あさお福祉計画及び地域包括ケアシステム推進会議」により共有し、点検・見直しをしながら、全体的な進行管理を行い、その後、「川崎市社会福祉審議会 地域福祉専門分科会」において、区の点検結果を踏まえ、川崎市地域福祉計画と一体的に、地域福祉施策の評価等を行っていきます。



(2) 地域福祉の担い手と役割

区民一人ひとりをはじめ、町会・自治会、民生委員児童委員、社会福祉法人、ボランティア・NPO法人、社会福祉協議会、その他関係団体、行政など、あらゆる人々が地域福祉の担い手として、それぞれの役割を果たしながら支え合いの地域づくりを進めることが大切です。ここでは、代表的な担い手の役割について説明します。

① 区民一人ひとりの役割

地域社会はそこに住む区民が主体的に作り上げていくものだという意識を持ち、できることから積極的に地域活動に参加することが求められています。さらにその活動を地域全体に広げることで、地域のコミュニティが活性化され、支え合いの地域づくりの基盤となります。

② 町会・自治会の役割

地域福祉を推進する上での、小規模で身近な圏域として位置付けられます。区民の生活課題の解決に向けた日常的な活動を行い、また、地域の支え合い意識の向上に努める団体として、重要な役割が期待されています。

③ 民生委員児童委員の役割

民生委員児童委員は、様々な生活上の問題を抱えた人たちが適切な支援や相談先につながるための、地域福祉の重要なパイプ役を担っており、町会・自治会との連携した活動も期待されます。

④ 社会福祉法人の役割

高齢者・障害者・子ども等の福祉に関する幅広い専門知識と物的・人的資源を持ち合わせている社会福祉法人は、その社会資源を活用し、地域と連携して公的な援助以外のサービス（インフォーマルサービス）に積極的に取り組むことが望まれます。

⑤ ボランティア・NPO法人の役割

自由な発想で区民のニーズにきめ細かく、迅速に対応することができる特徴を活かし、関係機関・団体と連携を図りながら地域福祉の推進に貢献していくことが望まれています。

⑥ 区社会福祉協議会、地区社会福祉協議会の役割

区社会福祉協議会は、地域福祉推進の中心を担う団体として、民間組織としての強みを活かし、行政と協働・連携しながら事業を展開していくことが求められています。

また、独立した任意団体である地区社会福祉協議会も、地域の多様なニーズに応じた活動を推進することが求められています。

麻生区地域福祉計画 策定にあたって

第1章

1

麻生区の概況

麻生区は昭和57（1982）年7月1日、川崎市の行政区再編によって、多摩区から分区し誕生しました。麻生の名の起こりは、8世紀頃から朝廷への貢ぎ物だった麻布の原料である麻を広く産した地であったことによると伝えられています。1214年（鎌倉時代）に王禅寺で発見されたといわれる「禅寺丸柿」は、「柿生」（かきお）の地名の由来にもなっており、区の木に選ばれています。

昭和2（1927）年に小田急線の柿生駅ができた後、昭和40（1965）年以降に開発が進められ、昭和49（1974）年に区を中心となる新百合ヶ丘駅が誕生しました。百合丘や新百合ヶ丘の地名の由来となった「ヤマユリ」は、後に区の花となりました。

現在、新百合ヶ丘駅周辺には、麻生区役所総合庁舎、麻生市民館、消防署があるほか、駅南側には大型ショッピングセンター、映画館などからなる商業地域が形成されています。また、「昭和音楽大学」、「日本映画大学」、「川崎市アートセンター」など芸術関連施設も多く、芸術・文化の薫りあふれるまちとなっています。

一方、区内にはエレクトロニクスや先端技術の研究開発施設が集まる「マイコンシティ」などの産業資源、「麻生スポーツセンター」をはじめ、片平川沿いの「麻生区スポーツ・健康ロード」、「川崎フロンターレ」の練習場など地域に密着したスポーツ資源、「王禅寺ふるさと公園」、大型農産物直売所「セレサモス」、「黒川」・「岡上」・「早野」の農業振興地域など豊かな自然・農業資源が多く存在します。これらの地域資源を活かしながら、地域と連携して住みやすいまちづくりをめざしています。

また、令和5（2023）年5月12日に厚生労働省が公表した「令和2年市区町村別生命表」によると、麻生区は平均寿命が男女ともに日本一になりました。



麻生区の花
ヤマユリ



麻生区の木
禅寺丸柿

平均寿命日本一については、
p.80・81のコラムもご覧ください



禅寺丸柿キャラクター
かきまるくん

2

統計データから見る麻生区の現況

1

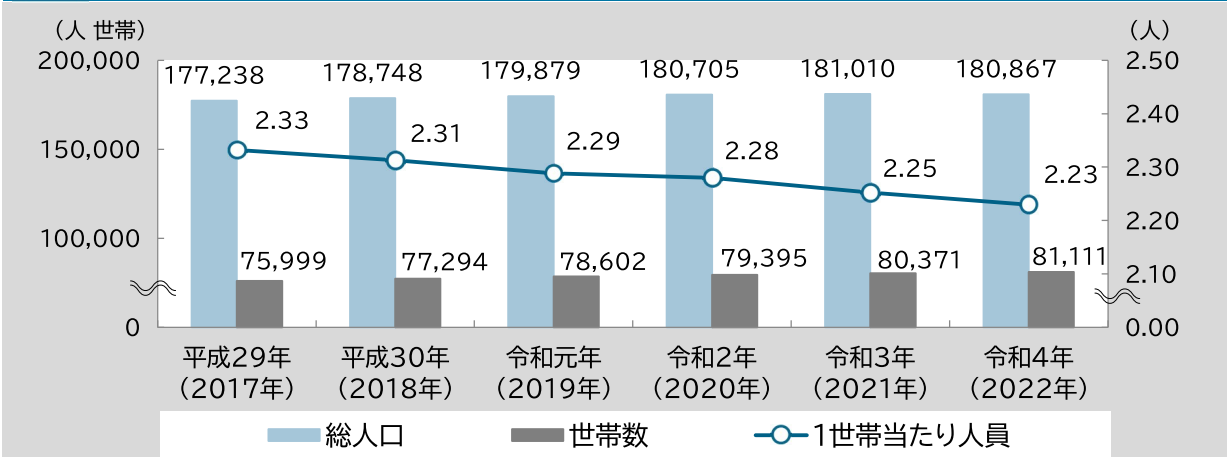
人口・世帯



麻生区の人口は、令和2（2020）年に180,000人を超え、令和4（2022）年の人口は180,867人となっています。

世帯数は令和3（2021）年に80,000世帯を超え、令和4（2022）年の1世帯当たり人員は2.23人となっています。【図表1】

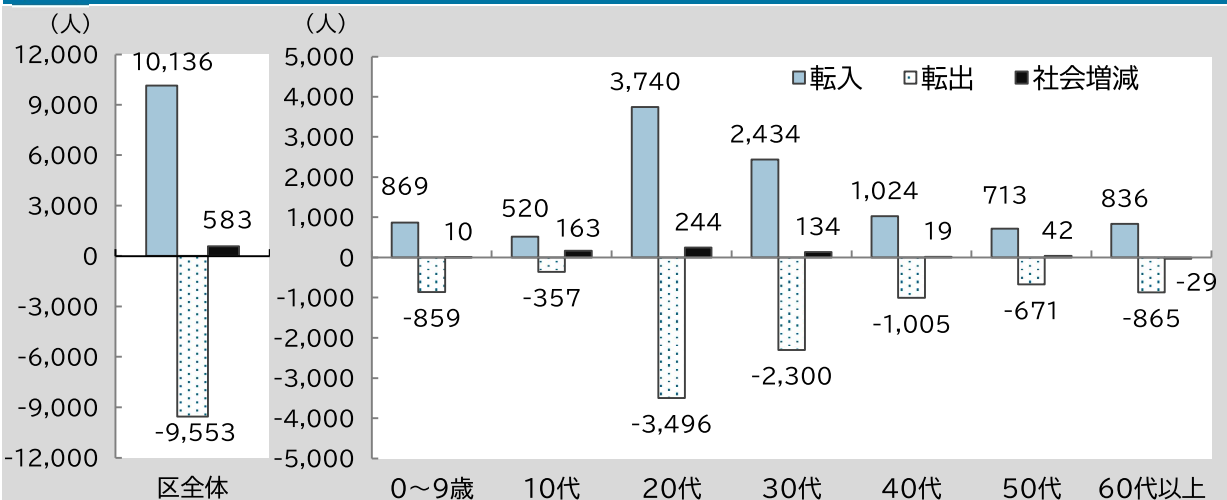
図表1 総人口と世帯数の推移：麻生区



資料：川崎市の統計情報「川崎市の世帯数・人口」（各年10月1日現在）

令和4（2022）年の転出入の状況は、区全体では転入が転出を上回り、583人の社会増となっています。年齢別では20代が転入・転出ともに最も多く、244人の社会増となっています。【図表2】

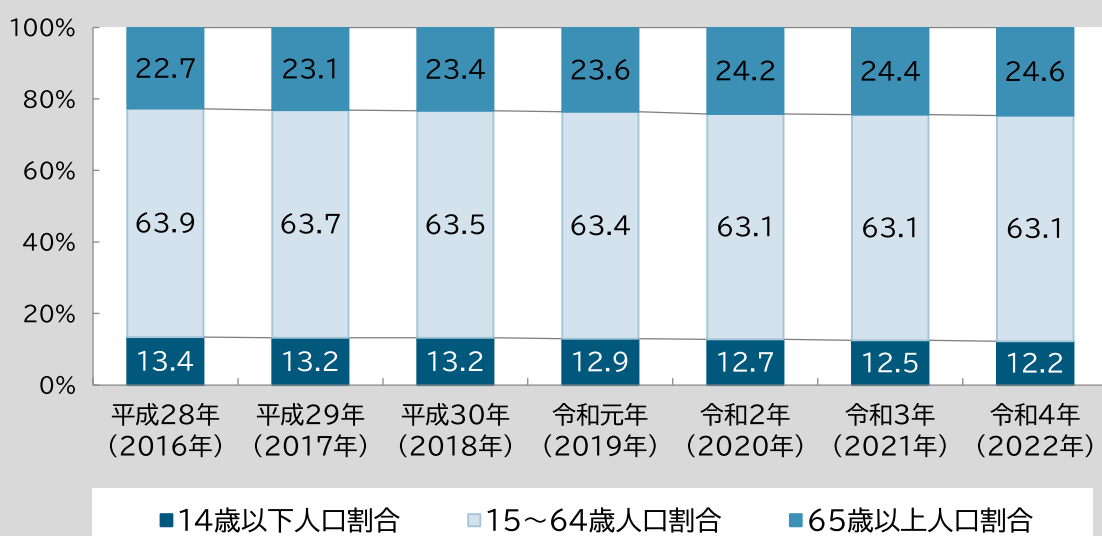
図表2 転出入の状況：麻生区



資料：川崎市の統計情報「川崎市の人口動態（令和4（2022）年）」
 ※社会増減…住民の転入から転出を差し引いた人数

年齢3区分別人口割合の推移を見ると、14歳以下人口割合の低下と65歳以上人口割合の上昇が続き、少子高齢化が進んでいることがわかります。【図表3】

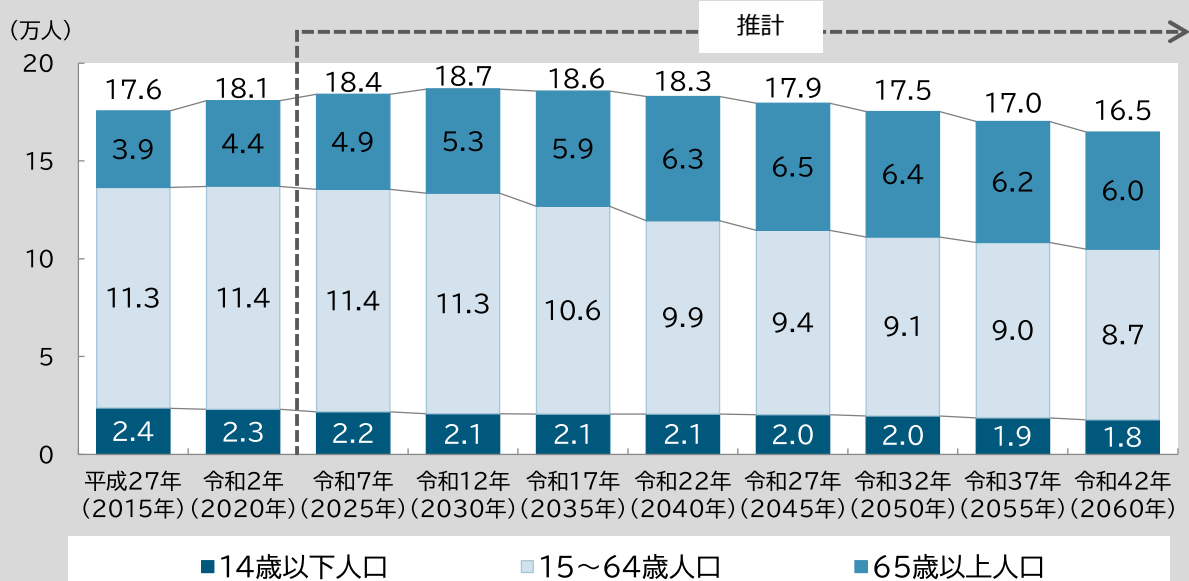
図表3 年齢3区分別人口割合の推移：麻生区



資料：川崎市の統計情報「川崎市年齢別人口」（各年10月1日現在）
 ※構成割合は小数第2位を四捨五入しているため、合計が100.0%にならない場合がある。

年齢3区分別将来人口推計を見ると、総人口は令和12（2030）年頃をピークに減少に転じますが、65歳以上人口は令和27（2045）年まで増加が続く見込みとなっています。【図表4】

図表4 年齢3区分別将来人口推計：麻生区

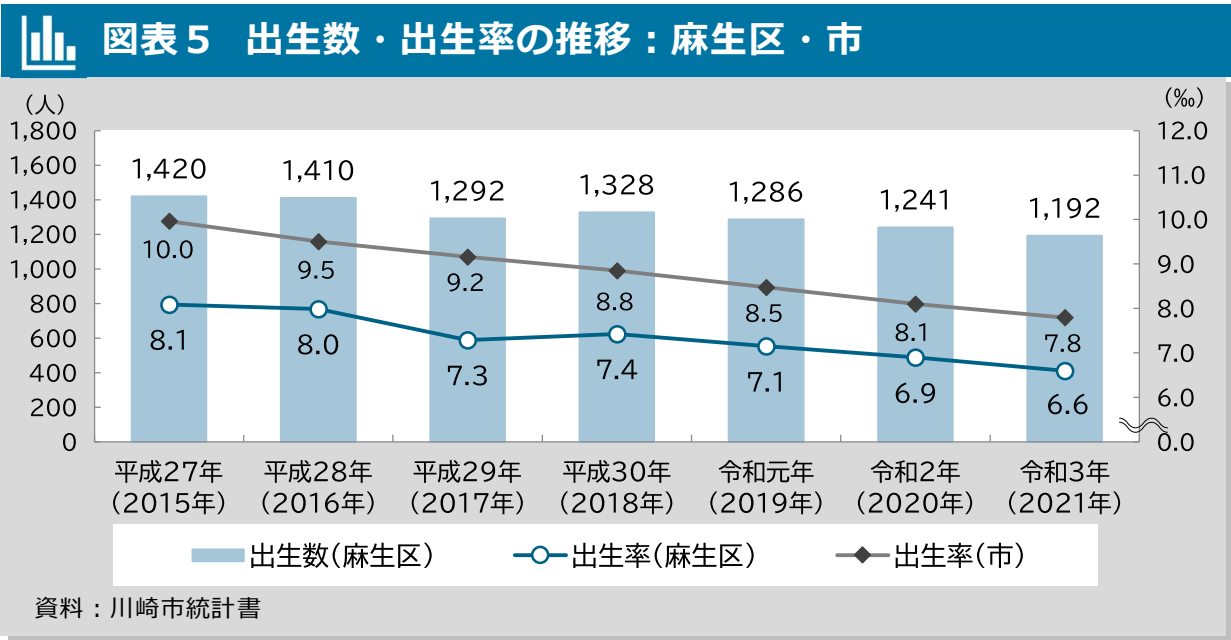


資料：川崎市総務企画局「川崎市総合計画第3期実施計画の策定に向けた将来人口推計（更新版）」

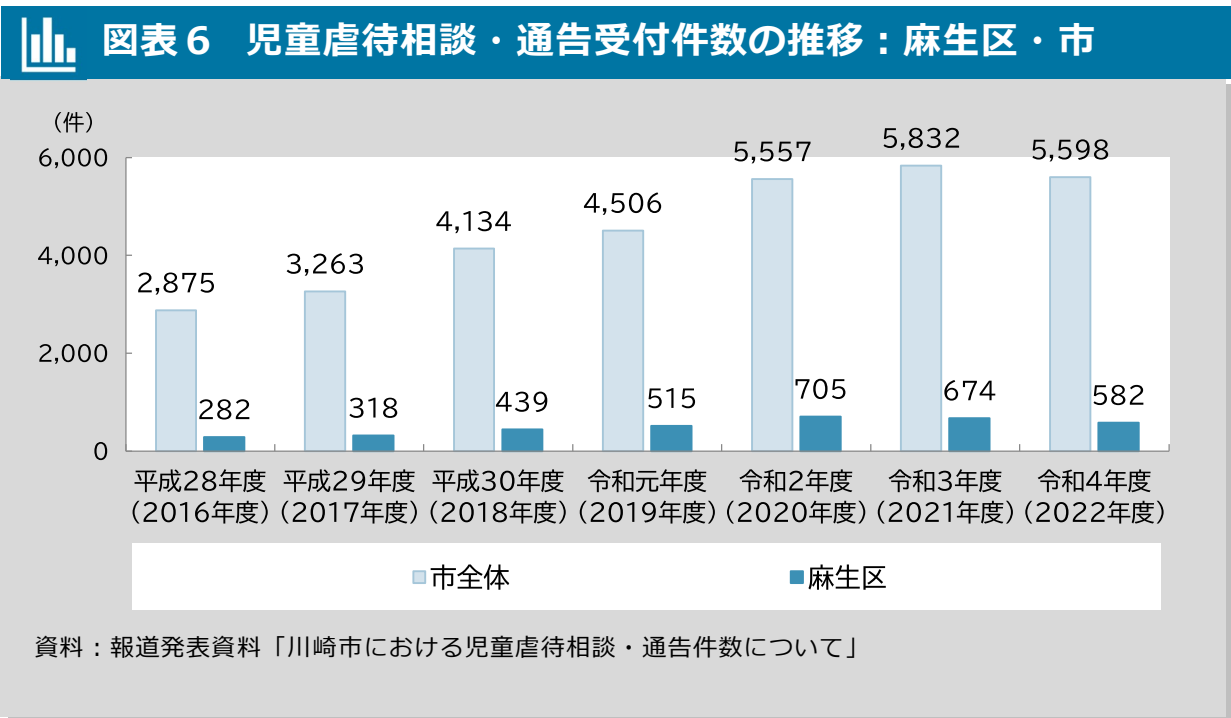
2 子ども・子育て



出生数は減少傾向にあり、令和3（2021）年の出生率は人口1,000人に対して6.6人と、市全体よりも低い状況が続いています。【図表5】



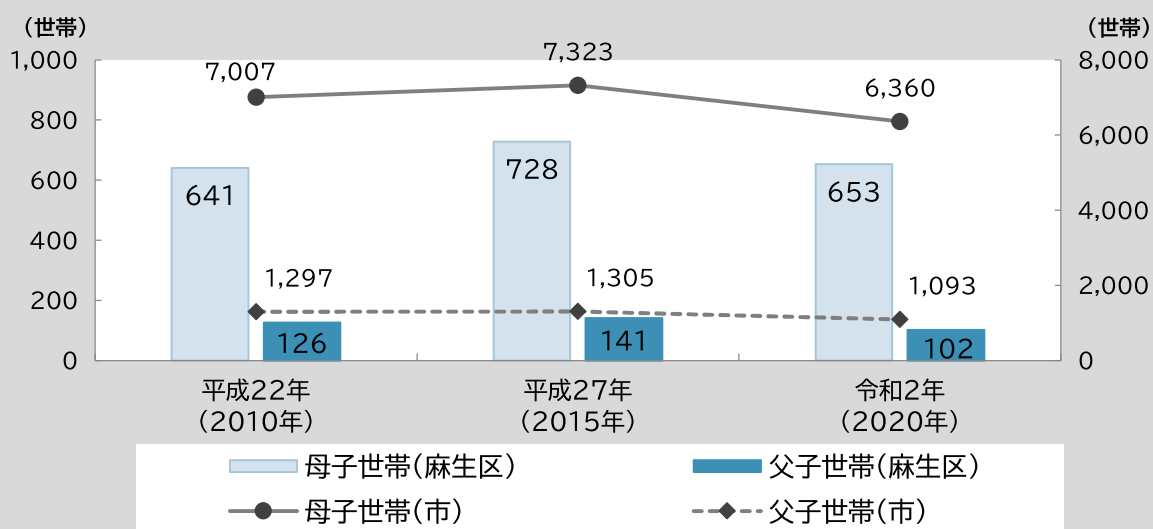
麻生区の児童虐待相談・通告件数（児童相談所・区役所の合計）は、令和2（2020）年度まで増加傾向にありましたが、その後減少し、令和4（2022）年度は582件となっています。【図表6】



第1章 麻生区地域福祉計画策定にあたって

麻生区の母子世帯及び父子世帯の世帯数の推移を見ると、令和2（2020）年に母子世帯は653世帯、父子世帯は102世帯となっています。【図表7】

図表7 母子世帯数・父子世帯数：麻生区・市



資料：国勢調査

※他の世帯員（20歳以上の子どもを除く。）がいる母子・父子世帯を含む。

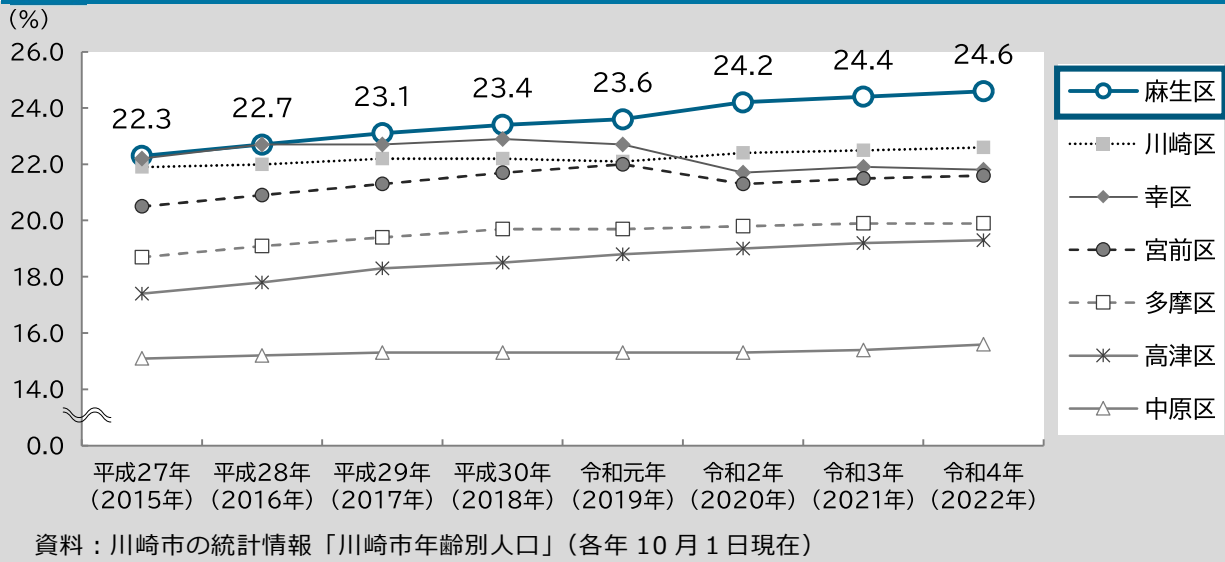
3

高齢者



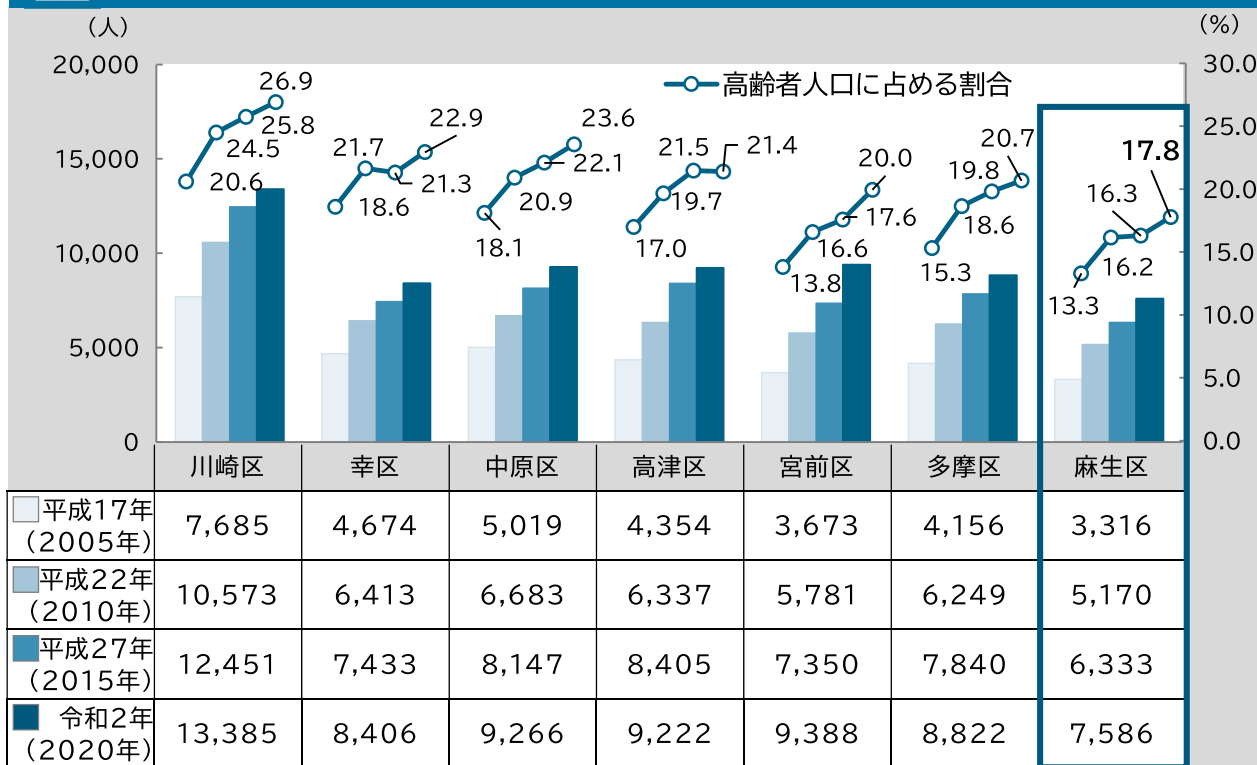
65歳以上人口が総人口に占める割合を表す高齢化率は7区で最も高く、令和4（2022）年には24.6%となっています。【図表8】

図表8 高齢化率の推移：区別



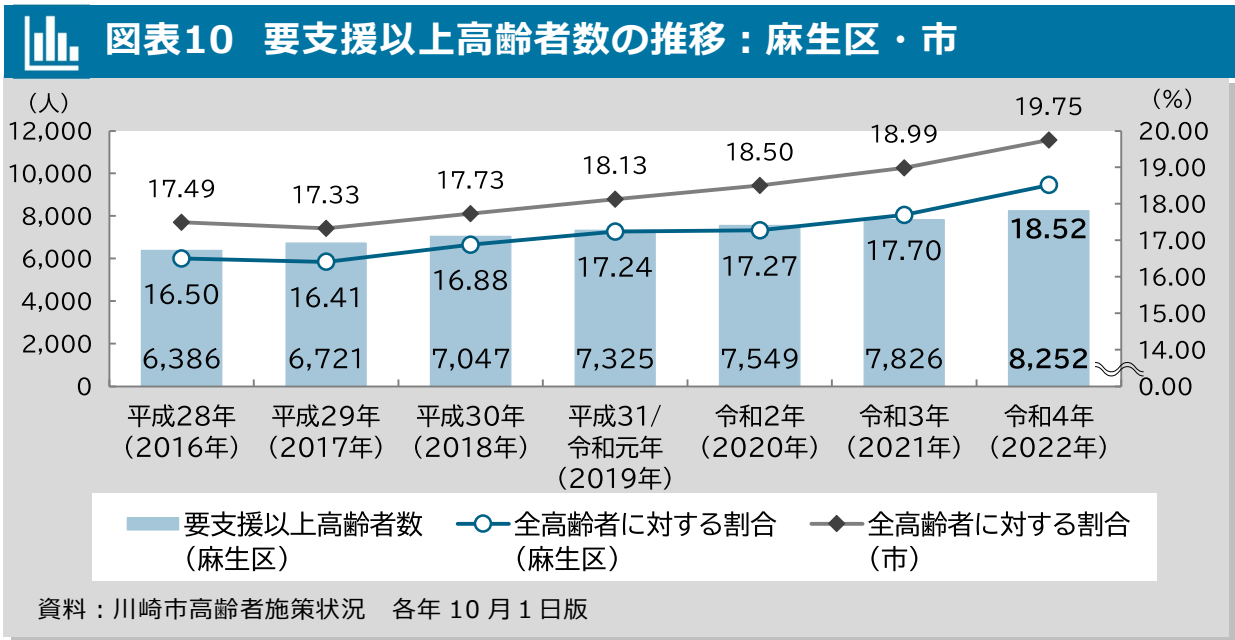
麻生区のひとり暮らし高齢者数の推移を見ると、令和2（2020）年に7,586人と7区で最も少ないものの増加傾向にあり、15年で2倍以上となっています。【図表9】

図表9 ひとり暮らし高齢者数の推移：区別



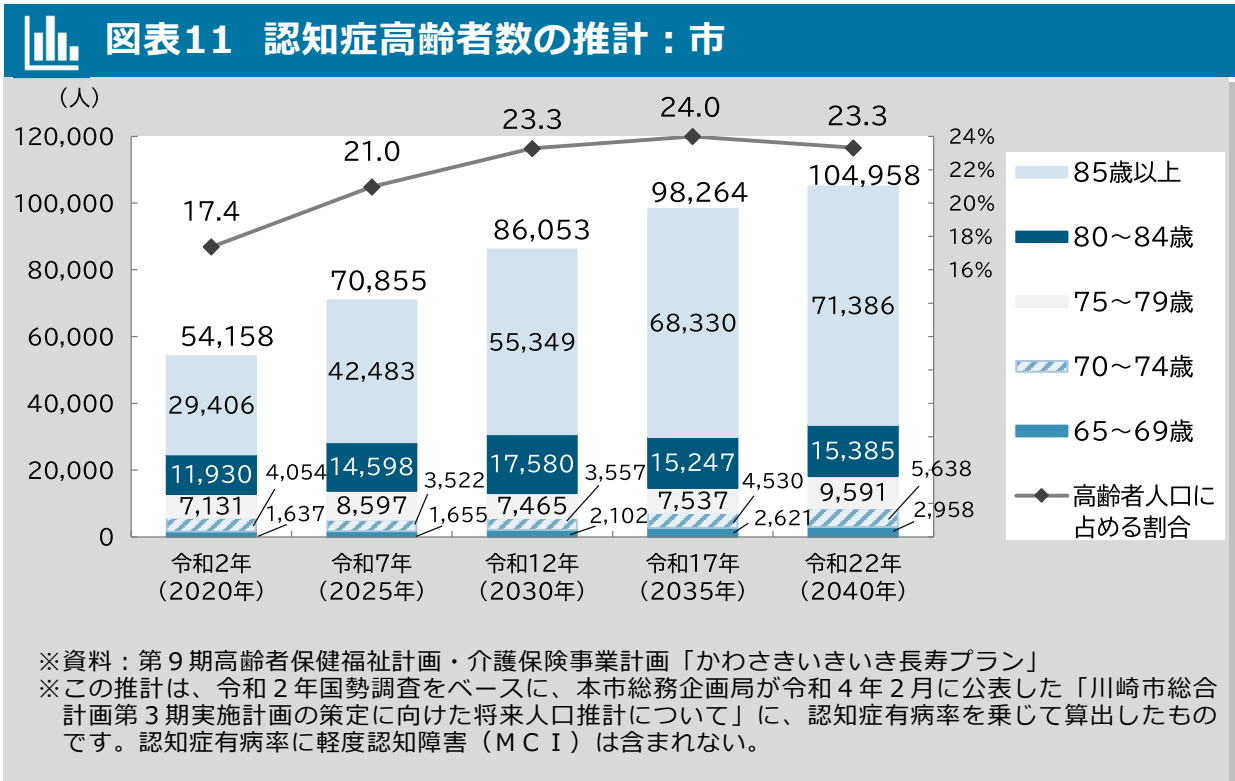
第1章 麻生区地域福祉計画策定にあたって

麻生区の要支援以上高齢者数は増加傾向にあります。令和4（2022）年の全高齢者に対する割合は18.52%で、市の割合を下回って推移しています。【図表10】



参考

市における認知症高齢者数の推計を見ると、本市の認知症高齢者数は今後も増加を続け、令和7（2025）年には高齢者の約5人に1人が認知症になる見込みとなっています。【図表11】



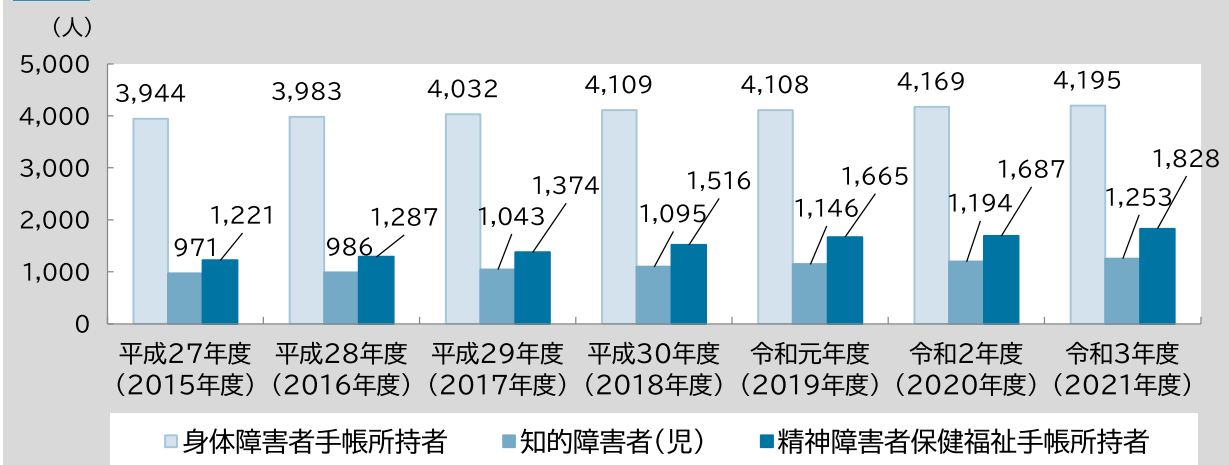
4

障害者



障害者数は、令和3（2021）年度に身体障害者手帳所持者数が4,195人、知的障害者（児）数が1,253人、精神障害者保健福祉手帳所持者数が1,828人となっています。知的障害者（児）数、精神障害者保健福祉手帳所持者数は増加傾向にあります。【図表12】

図表12 障害者手帳所持者数等の推移：麻生区



資料：川崎市統計書「障害者の概況」、川崎市健康福祉年報（各年度末現在）
 ※知的障害者（児）数は判定のみ受けて手帳を所持していない者も含む。

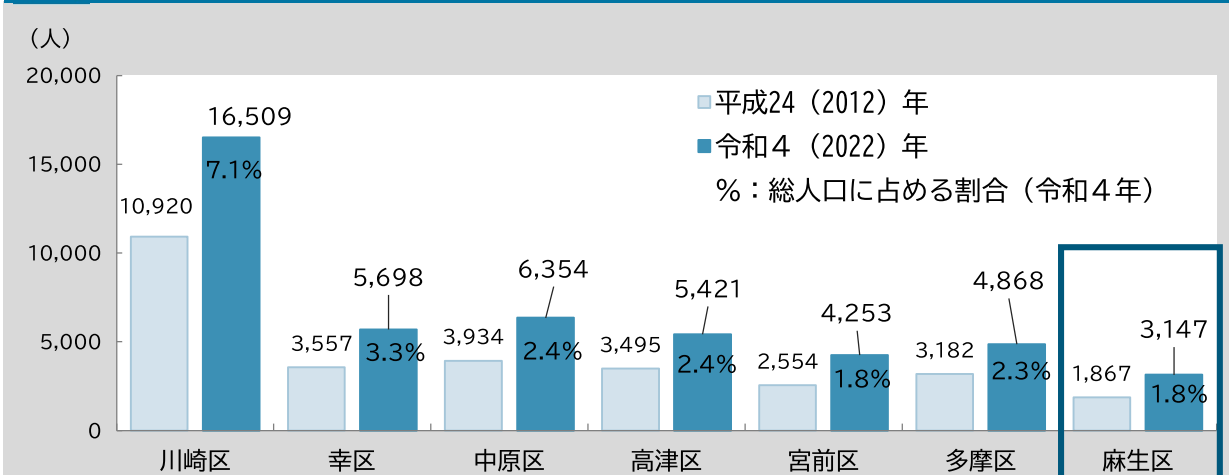
5

外国人住民



麻生区の外国人住民人口は、令和4（2022）年には3,147人となっており、平成24（2012）年から1,280人増加しています。総人口に占める割合は1.8%と、7区の中では低い水準にあります。【図表13】

図表13 外国人住民人口の推移：区別

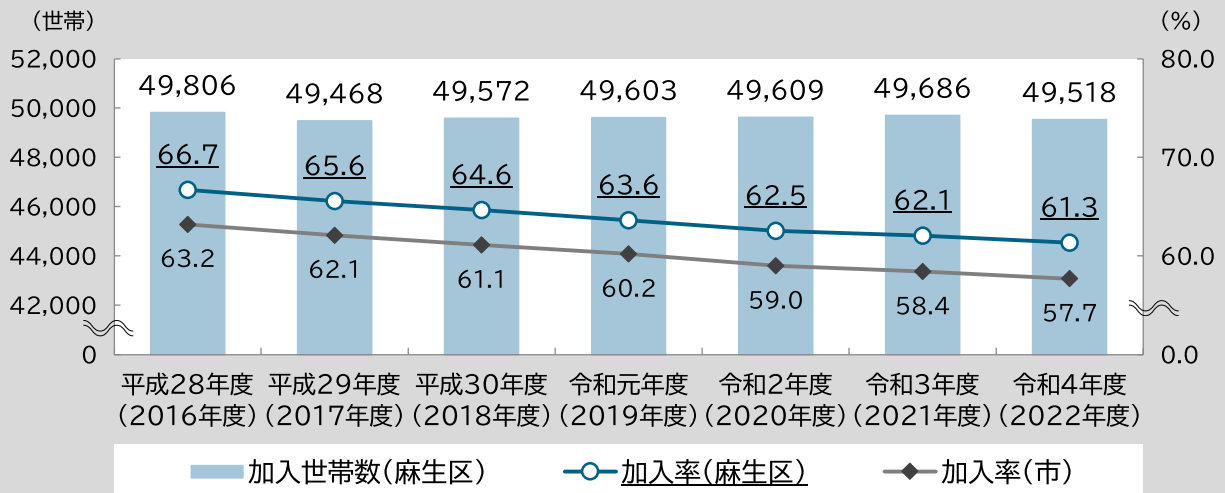


資料：川崎市統計情報「管区別年齢別外国人住民人口」（各年9月末日現在）
 総人口は「町丁別年齢別人口」（令和4年9月末日現在）



令和5（2023）年4月時点で麻生区には、7区で最も多い125の町会・自治会等の組織がありますが、町会・自治会等への加入率は低下傾向にあります。【図表14】

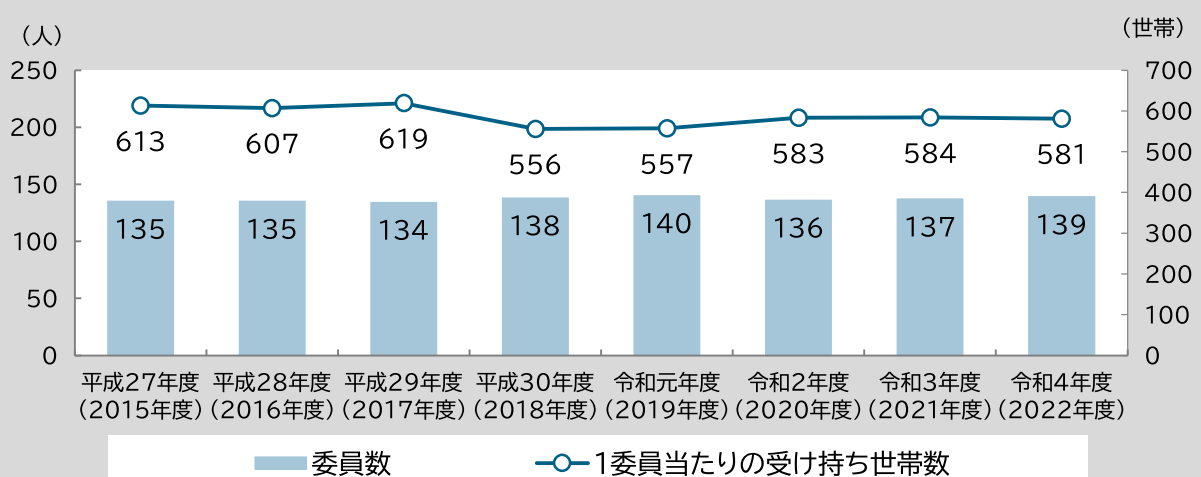
図表14 町会・自治会加入率及び加入世帯数の推移：麻生区・市



資料：川崎市統計書「住民組織加入状況」（各年度4月1日現在）

令和4（2022）年度の民生委員児童委員は139人で、1委員当たりの受け持ち世帯数は581世帯となっています。【図表15】

図表15 民生委員児童委員数と受け持ち世帯数の推移：麻生区

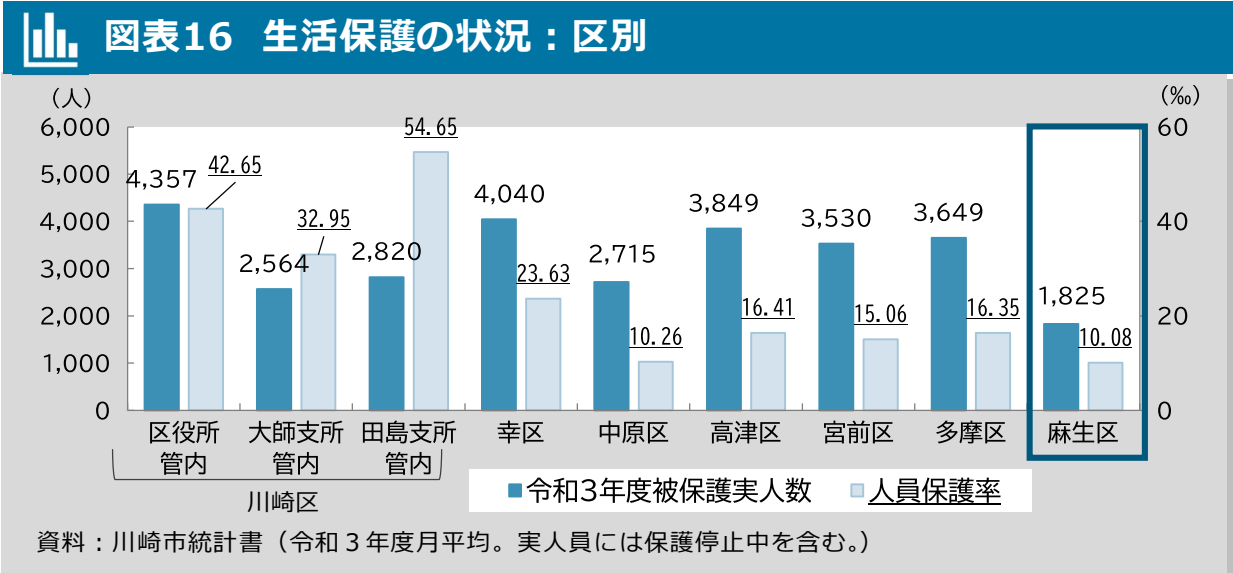


資料：川崎市統計書「民生委員・児童委員数等の状況」（各年度4月1日現在）

7 生活保護



麻生区において令和3（2021）年度に生活保護★を受けた人の数は1,825人で、人口1,000人に対する人員保護率は10.08人と7区で最も低くなっています。【図表16】



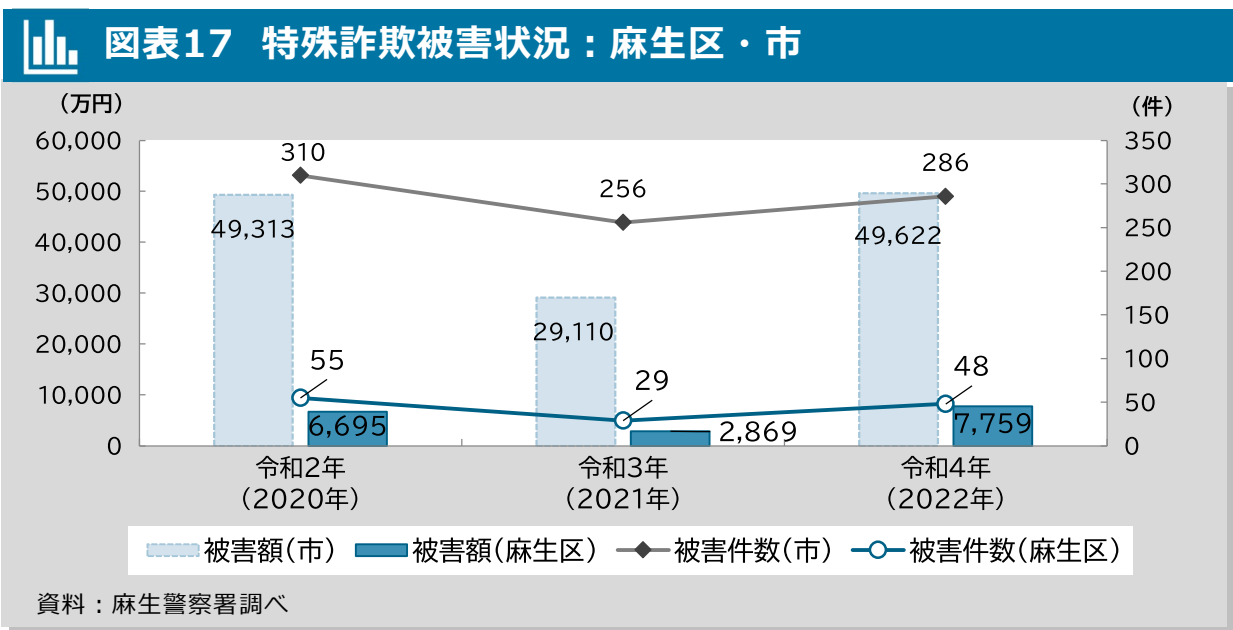
★生活保護：生活保護とは、家計を支えていた人が亡くなったり、病気やケガ、高齢や障害など何らかの事情により収入が途絶えたりして生活が困難となった場合、その困窮の程度に応じて必要な保護を行って、最低限度の生活の保障とともに、その自立の手助けをすることを目的とした制度です。健康で文化的な最低限度の生活を行う権利は日本国憲法に定められています。

第1章 麻生区地域福祉計画策定にあたって

8 安全・安心



令和4（2022）年に麻生区内で発生した特殊詐欺★の被害件数は48件、被害額は約7,759万円と前年より増加しています。【図表17】



★特殊詐欺：犯人が電話やハガキ（封書）等で親族や公共機関の職員等を名乗って被害者を信じ込ませ、現金やキャッシュカードをだまし取ったり、医療費の還付金が受け取れるなどと言ってATMを操作させ、犯人の口座に送金させる犯罪のことです。

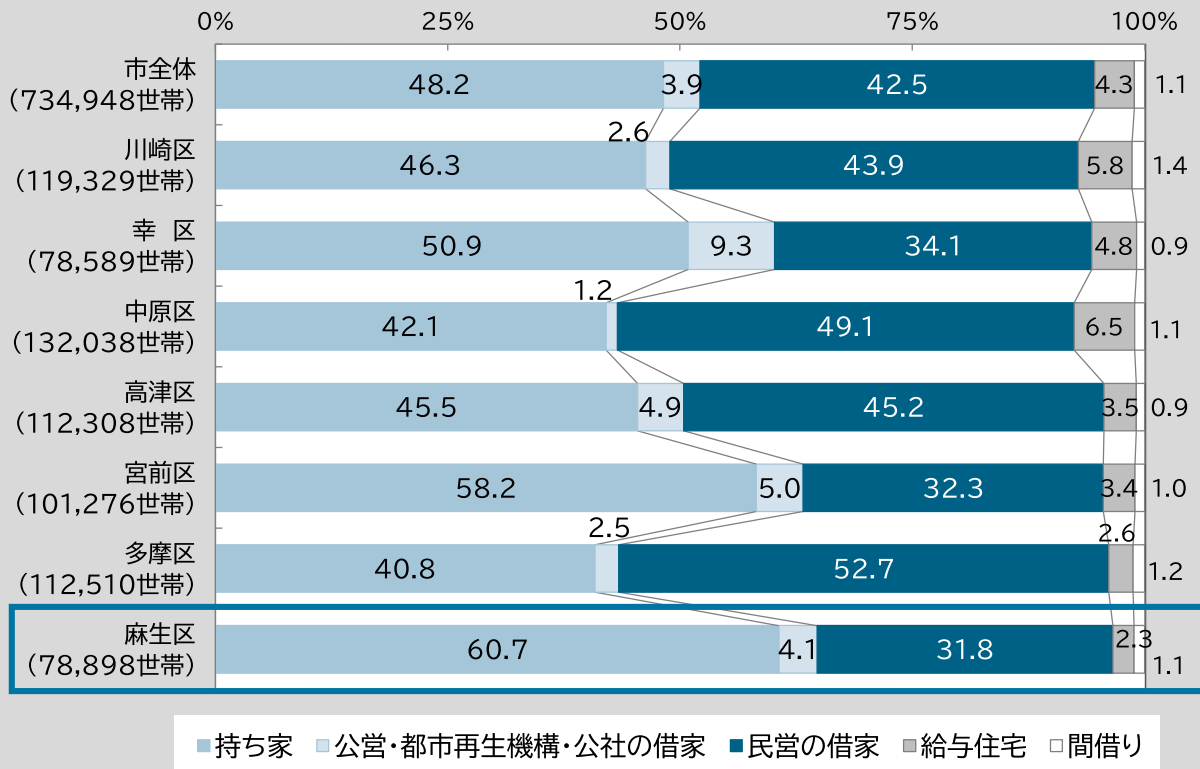
9

住まい



麻生区の持ち家の割合は、令和2（2020）年に60.7%と7区で最も高く、民営の借家の割合は31.8%と7区で最も低くなっています。【図表18】

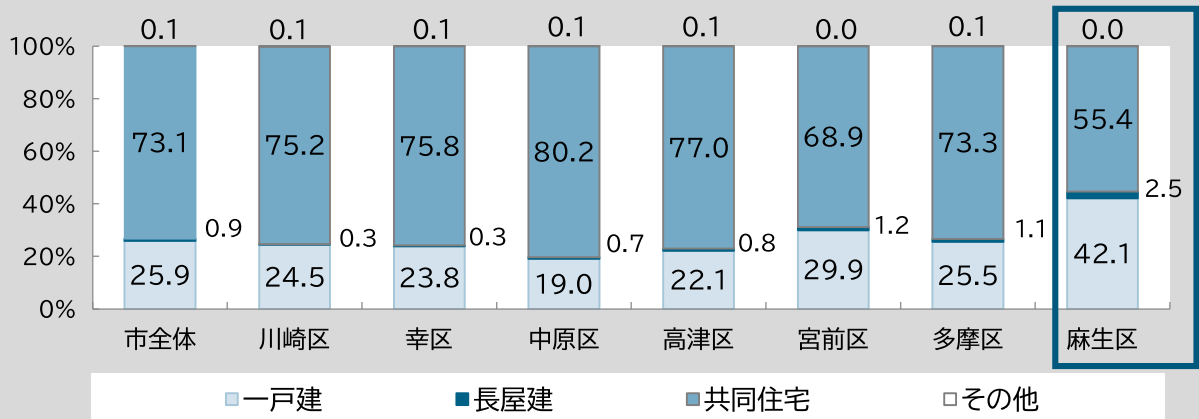
図表18 住まいの形態：区別



資料：令和2（2020）年国勢調査

麻生区の一戸建住居の割合は、令和2（2020）年に42.1%と7区で最も高くなっています。【図表19】

図表19 住居の種類：区別



資料：令和2（2020）年国勢調査